1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第669号（通巻1173号）　定価１部40円

創立1880年
東京YMCA
2009 9 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

インターナショナルデイ
英語を話そう、世界の文化を知ろう

キッズガーデン（英語幼児園）とキッズ英語クラス、インターナショナルスクール・ＴＹＩＳ（タイアス）の英語講師はアメリカやイギリスだけでなく、欧州やアジアからの出身者も数多く在籍している。

東陽町語学教育センターでは、「ＹＭＣＡに通う子どもたちに、多種多様な国の文化を知ってもらいたい」との願いから、講師の出身国を紹介し、実際に英語を話す機会として『インターナショナルデイ』を企画。講師陣が中心となり準備し、当日は語学クラスに通う中学生もボランティアとして参加した。

7月18日、東陽町語学教育センターでは「インターナショナルデイ」と題した語学プログラムを開催し、小学生70人、講師11人、ボランティア17人の総勢約100人が参加した。

会場のカフェテリア・ウェルビー（東陽町センター）には、インド、インドネシア、ニュージーランド、ジャマイカ、アメリカ、イギリス、日本等、東陽町語学教育センターとインターナショナルスクール・ＴＹＩＳの英語講師たちが出身国を紹介するブースを設置し、食べ物やゲーム、クラフトなどを紹介。子どもたちはＹＭＣＡのオリジナルパスポートを持って、各国を巡り講師陣と英語でのやり取りを楽しんだ。

「インターナショナルデイ」は今回が初の試みである。東陽町語学教育センターでは現在、13ヵ国から26人の語学講師が子どもたちに英語を教えており、北米やイギリスなどの英語圏からだけではなくアジアやヨーロッパ出身の講師も在籍する。通常、講師は1年間同じクラスを担当するため、受講生である子どもたちは担任以外と接する機会が少ない。そこで、「子どもたちが様々な国の文化を知り、教室以外で『実際に英語を話す』機会を設けてみては」という講師の意見から、今回の企画・実施。

当日、8ヵ国のブースには、それぞれの国の入国審査官に扮した講師たちが"May I see your passport?"と子どもたちを待ち受ける。担任の先生以外の外国人講師の問い掛けにドキドキ戸惑いながらも、一生懸命英語を使って受け応えていた。ゲームをしたり、食べ物を買う時には、ＹＭＣＡドル（おもちゃのお札）を使って支払いをする仕組みだ。全てのブースでスタンプをもらえると、世界一周の記念品が受け取れる。

英語が得意であっという間に世界一周できた子、二周目を始めようとする子もいれば、恥ずかしくてなかなか自分からブースに向かえない子は、講師やボランティアと一緒にコースを廻った。英語を話すにも、初対面の外国人に声をかけるにも勇気がいる。集めたスタンプの数が勇気を振り絞った証拠。子どもたちはパスポートを嬉しそうに持ち帰って行った。

また今回は、東陽町語学に通う中学生8人がボランティアとして参加し、事前のポスター作りから、ブースでの手伝いなど積極的に関わってくれた。

その他にも成人ボランティア、講師の家族や友人など大勢の力が結集してプログラムを盛り上げ、ＹＭＣＡのプログラムは「ひとの力」が作り上げるプログラムであることを改めて実感した。「ＹＭＣＡには色々な国から先生が集まっていて、色々な文化があるんだな。英語が使えるとみんなとお話が出来て楽しいな！」という印象が子どもたち一人ひとりに残ってくれたらと願う。

インターナショナルデイは「異文化理解」と「英語を使う楽しさ」をテーマにしたが、東京ＹＭＣＡに通う子どもたちには通常クラスにおいても、「違い」を知り受け入れようとする姿勢を持ち、英語を媒体として世界へ興味を広げていってほしいと考え、プログラム構成を行っている。

外国へ行かずとも、街中で、職場で、学校で、外国籍の人々や異なる文化・言語・バックグラウンドを持つ人々と接する機会は増えてきている。英語はその「違い」を互いに理解するための共通のツール＝道具となる。語学教育を通して、「違い」を受け入れ、活かし合っていく楽しさを見つけながら、多くの子どもたちが世界に羽ばたいていかれるよう一緒に努力をしていきたい。

東陽町語学教育センター
依田あゆみ

楽しみながら異文化を理解

講師やボランティアも積極的に協力

チームワーク 成功を収めた
カルバート・グラハム

インターナショナルデイに参加出来たことは大きな喜びでした。子どもたちはイベントの始めから興味をもってくれて、彼らにとって「楽しいこと」がたくさん詰まった内容となりました。また子どもたちには楽しむと同時に、多くを学ぶ様子が見られたことも素晴らしかったです。

講師とスタッフのチームワーク、そして保護者の方々からの温かいサポートがあり、このプログラムは大きな成功を収めたと思います。いつも積極的に行事に参加してくれる子どもたちにはとても感謝しています。

『One love. One heart. Let's get together and feel allright!』

このプログラムに込められた思いが、皆の心に届きますように。（講師）
（訳＝依田あゆみ）

新文化に触れ 子ども達笑顔に
河内法子

ジェット機の音と共に、私たちの世界旅行が始まりました。

先生方のアイディアで、8ヵ国の素敵なブースがオープン。英語を使いながら新しい文化に触れた子どもたちの笑顔と、皆のチームワークがとても印象的な一日でした。（講師）

英語との距離縮まりを実感
英検クラス　丸山絵梨子

英語にあまり自信がなく、さらにボランティアは初めてだったので当日までちゃんと英語を話せるか不安でした。

でも先生やスタッフの方々がとても親切に接して下さったので自然に英語が出てきました。英語との距離が縮まった楽しい1日になりました。（中学3年）

キッズガーデンは、３～５歳児を対象にした「英語を用いた幼児教育・保育」のプログラムである。子どもたちの可能性は無限に広がり、その個性・能力は一人ひとり千差万別でもある。

東京ＹＭＣＡは子ども一人ひとりの人格をしっかりと認め、大切にしていくことを前提に英語教育を行っている。キッズガーデンでは、それを教育者も保護者も受け入れつつ、平和な世界を築く大人へと育つ過程の初めの部分に関わりたいと考えている。

卒園後は、インターナショナルスクールだけではなく、日本の小学校に進学する子どもたちも大勢いる。子どもたちの個性や家族の思いもそれぞれ。横並びではない生き方を応援したい。

インターナショナルスクール・ＴＹＩＳには、Senior Kinder（幼稚園年長）からGrade8（中学２年）まで、約100名が在籍し、韓国・中国・日本など東アジアを中心に、インド、パキスタン、カナダなど様々な文化や伝統を背景に持つ10ヶ国を超える国々の子どもが、東陽町センターに通っている。

言語も英語が用いられ、教師陣も英語圏での教師としての資格を取得した人材が従事している。現代では、国際化の中で英語力だけが注目されがちだが、本来はその英語をどのように用いて、世界の人々と共に生きる社会を実現できるかが、重要である。

ＴＹＩＳの生徒は、ＹＭＣＡで過ごす時間が最も長い子どもたちであり、この子どもたちに、ウエルネス的な生き方の実践、世界のＹＭＣＡとのつながり、地域への奉仕など、ＹＭＣＡならではの体験を総合的に提供できる。ＹＭＣＡの働きを体現できる学校でありたいと考えている。（スタッフ：山根一毅）

ソシアス・フォーラム2009

ＹＭＣＡの未来を一緒に考えましょう。
日程：10月23日（金）～24日（土）
場所：高尾の森わくわくビレッジ
お問い合せ
会員部：03―3615―5568

赤▽三角

東京―ソウルＹＭＣＡパートナーシッププログラムの一環として、８月４日～９日にソウルＹＭＣＡのサッカー少年13人とスタッフ５人が来日した。今回で９回目となるが、今年のサッカー交歓会は一味違ったものとなった。▼一つは、毎回試合で審判をして下さる田中治夫氏が監督を務める女子小学生チームの戸木南チームが加わったこと（なでしこジャパンに８人のメンバーを送り込む強豪名門チーム）。もう一つがＴＹＩＳから参加メンバーが出て、江東ＹのサッカーチームをＴＹＩＳの保護者にも受け入れをしていただき、新しい試みをスタートさせることができた。このように、東京ＹＭＣＡらしさをプログラムの中で表現できたのは、神の御手でつながった会員・スタッフの結束力と、その底辺に流れる「今の子どもたちの国際交流を通して、未来の世界の架け橋となる青年を育てていこう」という強い願いだと感じている。（ソウルパートナーシップ委員長　須田哲史）